



▲ブナの木が水を吸い上げる音を聞くつくば市児童(七滝水源涵養保安林にて)



▲霞ヶ浦の透明度を計る実験を行う美郷町児童

茨城県つくば市と本町の小学生による水環境学習交流が行われ、8月1日から4日にかけて、同市内の小学5年生代表児童34人が本町を訪れました。

生活排水の流入により水質が悪化した霞ヶ浦に面する同市と地下水資源の豊富な本町の水環境の違いを体験することにより、次世代を担う子どもたちの水環境に対する関心を高めようとして行われているこの交流は、平成11年から始まり毎年この時期に行われています。

本町を訪れた同市の児童の皆さんは、六郷東根の「七滝水源涵養保安林」の見学や、本町児童と合同で御台所清水や丸子川の水質・水生生物調査を行ったほか、清水まつりではみこし担ぎに参加、美郷町の水環境を体験しました。

また、8月18日から20日にかけては、本町の小学4、5年生の代表児童37人が、つくば市と本堂公ゆかりの地として交流がある茨城県かすみがうら市を訪問。霞ヶ浦の水質・水生生物調査や宇宙センターなどの研究施設を見学したほか、かすみがうら市の果樹園でくだもの狩りを行いました。

両市町の子どもたちにとって、異なる水環境の学習を通じた交流は、日常生活での水とのかかわり方の重要さを改めて認識する貴重な機会となりました。

美郷町の将来を担う子どもたちの教育環境について語り合いました 学校教育懇談会

子どもたちのこれからの教育環境について住民の皆さんからご意見をお聞きする学校教育懇談会が、8月19、20、22日の3日間、町内3カ所で開催されました。

町教育委員会から、学校教育将来構想事業の目的や今後の事業計画、美郷町望ましい学校規模を考える委員会における学校の適正規模、適正規模に再編する方策(通学区域の見直し・学校選択制・学校の統廃合)について説明され、住民や保護者の方々からは「幼稚園・保育園では一緒なのに小学校で離れてしまう。入学後の学年交流会を計画してくれないか。」「もし統廃合になったら、スクールバスになるのか。部活動はどうなるのか。」といった意見が出されました。

児童生徒の減少により年々進行する小・中学校の小規模化。平成20年度において町内に小学生1058人、中学生609人在籍する児童生徒が、平成26年度にはそれぞれ約890人、約520人までに減少し、その深刻さが増します。

懇談会でみなさんからいただいたご意見や、昨年度行ったアンケート結果などを参考にしながら、町の子どもたちにとってよりよい教育環境について、これからの具体的な方向性を検討していきます。

学校規模の現状と推移

(単位：人、学級)

小学校	学校名	平成20年度								平成26年度							
		区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	
		千屋小	児童数	39	46	38	44	34	39	240	30	29	28	30	19	36	172
	学級数	1	2	1	2	1	1	8	1	1	1	1	1	1	6		
	千畑南小	児童数	27	21	24	17	34	30	153	16	17	31	21	24	29	138	
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6		
	六郷小	児童数	51	43	54	48	60	54	310	40	35	36	27	48	41	227	
	学級数	2	2	2	2	2	2	12	1	1	1	1	2	2	8		
	六郷東根小	児童数	11	5	11	5	5	4	41	3	8	8	5	4	10	38	
	学級数	1	1	1	1	1	1	5	1	1		1		1	4		
	仙南東小	児童数	10	29	17	15	21	26	118	23	10	17	11	24	12	97	
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6		
	仙南西小	児童数	15	17	21	15	12	17	97	12	16	16	18	27	18	107	
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6		
	金沢小	児童数	14	9	19	16	21	20	99	14	29	19	16	20	17	115	
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6		
	計	児童数	167	170	184	160	187	190	1058	138	144	155	128	166	163	894	
	学級数	8	9	8	9	7	8	49	7	7	6	7	7	8	42		

中学校	学校名	平成20年度				平成26年度				
		区分	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
		千畑中	生徒数	65	76	93	234	66	67	62
	学級数	2	2	3	7	2	2	2	6	
	六郷中	生徒数	50	59	70	179	62	48	65	175
	学級数	2	2	2	6	2	2	2	6	
	仙南中	生徒数	60	53	83	196	39	55	57	151
	学級数	2	2	3	7	1	2	2	5	
	計	生徒数	175	188	246	609	167	170	184	521
	学級数	6	6	8	20	5	6	6	17	





▲第3回美郷町地販地消推進会議



▲美郷まんま(試作品)



▲たぬき中華(試作品)

町内産品などの地域内流通と消費拡大を促し、町内経済の活性化を図るための具体策を話し合う、美郷町地販地消推進会議の第3回合会が、7月30日、役場六郷庁舎で行われました。

この日の会議では、7月に町内の全事業者を対象として実施した地販地消に関する意向調査の結果が委員に報告されました。その後、地販地消推進のための具体策として今年度実施する「美郷まるごとガイドブックの発行」、「特産品の開発支援」について、事業スケジュールや懸案事項などの審議が行われました。

この結果、「美郷まるごとガイドブック」は12月に発行することとし、特産品として、美郷町商工会青年部が企画している「美郷まんま」、同女性部が企画している「たぬき中華」の開発を支援していくことになりました。

風

「五輪とサムエル・ウルマン」

美郷町長 松田 知己



▲33歳厄年男衆の皆さんと松田町長
(8月9日、焼災招福祈願祭にて)

あつい八月が過ぎました。とりわけ前半は高温多湿で、実感として暑い夏でした。また四年に一度の祭典、北京五輪も私たちを大いに熱くしてくれました。改めてスポーツの持つ素晴らしさを再認識です。特に有言実行の水泳の北島選手をはじめ、テレビ放映された多くの選手のがんばる姿は、理屈なしに私たちに勇気を与えてくれました。昨年の秋田わか杉国体同様、「感動をありがとう」です。

さて、今回の五輪、私はある選手に注目をしていました。法華津寛氏。馬術の日本代表選手です。日本選手団の最年長ということでご存知の方も多しはずです。何故注目したのか。それは、失礼ながらその年齢です。馬術は、比較的選手層に年齢幅があるらしいですが、それにしても、定年退職後に単身ドイツに渡り、第二の人生を馬術に賭けた法華津選手。そして六十七歳での五輪出場。その

バイタリティー、素晴らしいの一言です。話は変わりますが、先々月、県経済界の重鎮、辻兵吉氏がご逝去されました。享年八十三歳。お亡くなりになる直前まで、各界の先頭に立っての牽引役でした。一体その意欲はどこにあったのか。ご葬儀で得心しました。座右の銘が、詩人サムエル・ウルマンの有名な詩「青春」でした。「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。(中略)年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる。(中略)」。

そしてウルマンは続けます。「頭を高く上げ希望の波をとらえる限り、八十歳であろうと人は青春にして已む」。お二人に共通するのは、この心持ちではないかと思う次第です。今月十五日は敬老の日。私を含む若輩は、先輩であるご高齢者に対して、真摯に老いを敬う謙虚さに心を浸してもらいたいと思うとともに、ご高齢者には、決して自分はまだ「老いていない」ことを再確認していただきたいと思えます。皆さんの心はまだ若い！今年も町主催の敬老会を各地区で開催いたします。どうか、ご無理でない限りご参加をいただき、皆さんとの交流を通じて心の若さを保っていただきたいと願っております。

9月のふれあい談話室

9月19日(金) 役場仙南庁舎 2階応接室
午後5時から午後6時30分
ご希望のかたは前日までお申し込みください。

問い合わせ

役場(六郷庁舎)総務課 秘書広報班
☎0187(84)1111